

知多半島医療圏における災害医療対策について

1 知多半島医療圏医療救護活動計画の策定

- 平成 28 年 2 月 25 日策定
- 内容は右枠目次のとおり
- 特徴
 - ・ 半田市立半田病院を中心に知多半島医療圏災害連携会議を月 1 回開催している。知多半島医療圏内にある 18 病院のうち、常に 4/5 くらいの病院が出席しており、病院間の連携は深まっている。
 - ・ 災害は原則市町で対応、医療救護所の設置場所を決定、住民に周知し、病院への患者集中を防止する。
 - ・ 病院、透析医療機関をそれぞれプロットした知多半島医療圏の地図を挿入した。その地図には、知多半島の海沿いの道路及び知多半島道路が、大規模災害時には、津波浸水、液状化、安全点検により通行できない可能性があることも記載した。
- これは最終版ではなく、今後、訓練等を通じて検討し修正していく。

《知多半島医療圏医療救護活動計画》

目次

計画の概要

- 1 大規模災害時における対応
- 2 医療機関の役割
- 3 情報収集と共有体制
- 4 医療救護チームの活動
- 5 医薬品等の確保体制
- 6 傷病者等の搬送体制
- 7 公衆衛生対策
- 8 災害時要配慮者対策
- 9 検視検案体制

2 今年度の取組

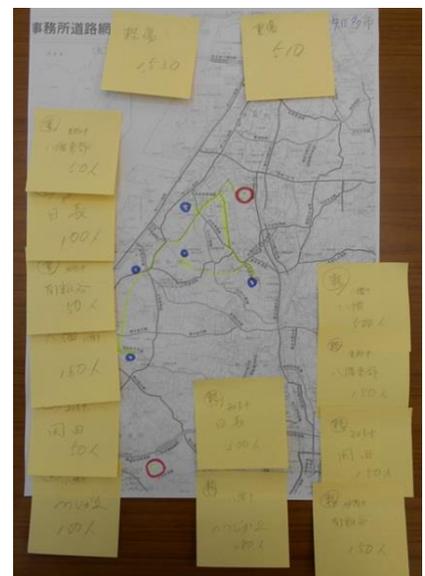
○ 平成 28 年度知多半島医療圏災害医療対策に係る研修会の開催

- ・ 日時：平成 28 年 7 月 19 日(火)午後 2 時から午後 4 時まで
- ・ 場所：半田保健所 4 階 大会議室



- ・ 出席者：合計 96 名
- 講師：愛知医科大学災害医療研究センター
助教 小澤和弘
- 災害医療コーディネーター
田中先生（半田市立半田病院）
水野先生（厚生連知多厚生病院）
有木先生（公立西知多総合病院）
- 市町、三師会及び病院の参加者 82 名
- 半田保健所及び知多保健所の事務局 10 名

- ・ 内容
市町単位でグループワークを行い、災害時の自施設の対応及び市町内での対応について検討した。
- ・ 参加者の感想（抜粋）
災害時の対応について課題が見えた。
災害時の対応については検討してきたつもりだったが、当地区での災害医療対策の弱さを再認識した。
行政、三師会及び病院関係者が一緒に災害医療対策について考えるいい機会になった。



○ 8.6 知多半島医療圏災害医療対策会議設置訓練

- 日時：平成 28 年 8 月 6 日（土）
午前 8 時 30 分から正午まで
- 場所：半田保健所 1 階 第 1 会議室
- 参加機関：35 関係機関
田中地域災害医療コーディネーター
DMAT 災害拠点本部（藤田保健衛生大学病院）
8 市町、半田市医師会、東海市医師会、知多郡医師会、
知多郡歯科医師会及び 18 病院
愛知県災害医療調整本部、愛知県 DPAT 調整本部
半田保健所及び知多保健所



- 内容：知多半島医療圏医療救護活動計画を基本に、各関係機関から提出された被災想定を基に、田中災害医療コーディネーターを中心に知多半島医療圏内の災害医療対策を検討

・ 課題等

道路情報が医療情報と同じくらい大切

保健所の役割は情報収集、整理、発信

保健所職員への災害医療対策に係わるマニュアルの周知

如何に減災するかをイメージし、シミュレーション能力を発揮して対応することが大切

・ 参考

内閣府主催の南海トラフ地震を想定した平成 28 年度大規模地震時医療活動訓練に合わせ、愛知県は、被災県として、県災害医療調整本部運用訓練、広域医療搬送訓練、地域医療搬送訓練及び地域災害医療対策会議の設置・運用訓練等を実施



3 今後の検討事項

- 南海トラフ巨大地震（最大モデル陸側、津波 1 ケース）の被災想定では、知多半島医療圏は壊滅状態になることが予想される。
- 発災後 3 日間は各施設、各市町内において自力で耐える体制の検討
- 災害時の医療対策がスムーズに行えるよう、軽症者は救護所または診療所で、治療を終えて医療の必要のない方は避難所等に対応し、病院は重傷者を受け入れる体制の構築
- 透析患者等災害時要配慮者対策
- 重症の傷病者を圏域外搬送する場合の搬送手段及び搬送経路等の検討
- 災害拠点病院の機能が停止したときの対応